



観 光 竜 王

Sight seeing RYUO

第86号

★

発 行

竜王町観光協会

〒520-2592

滋賀県蒲生郡竜王町小口3番地

竜王町総合庁舎・西館2F

TEL 0748-58-3715

FAX 0748-58-3730

<https://ryuoh.org>

e-mail info@ryuoh.org



『公益的な魅力ある観光地域づくり』



竜王町観光協会

会長 清水 正作

盛夏の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年度より会長の重責を預かることになりました。会員の皆様方や関連先、そして役員の方々のご指導ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

昨年度は、海外からの訪日客が急増し消費額も円安の影響もあり、どちらも過去最高を更新しました。近々に竜王町での体制づくりが急務でもあります。

本年は、大阪関西万博や滋賀県で開催されます国スポ・障スポ、並びに竜王町制七十周年の記念すべき年です。観光協会では、町制七十周年や大型商業施設十五周年を記念に二日間のスペシャル竜王まるしえを企画し、お客様に竜王町の魅力を再確認して頂きます。

国スポ・障スポのリハースルも終わり、本大会に向けて多くの選手や大会関係者・ご家族の方々へのおもてなしを、屋台出展者と連携し食事の提供や特産品お土産の販売を行い、今後リピート頂ける接遇を目指します。

昨年度より開設しております三井アウトレット内の観光案内所は、施設の制約もありますが竜王町の観光アンテナショップとして、引き続き改善して参ります。また、ボランティアグループ企画のアグリパークのチューリップ畑は今年も見事に花開き、善光寺川の花もや妹背の里の桜など、花がSNSの格好の被写体となり、魅力的な観光資源となっております。

伝統行事の山之上ケンケト祭り、苗村神社節句祭、弓削の火祭り、駕輿丁延命子安地藏尊大開帳等、地元の祭礼や各種行事を情報発信するほか、人気絶えない雪野山や鏡山ハイキングコースについては、貴重な動植物の調査や保護活動にも着手し、景観眺望の充実により観光誘客を目指します。

今後もより一層の積極的な情報発信や観光資源の開発、及び歴史・自然・文化の保存など、公益的な魅力ある観光地域づくりを推進いたします。

どうか引き続き皆様のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

末筆になりますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

『ご先祖と』



竜王町歴史倶楽部

吉田 絹枝 氏
(川守)

皆様は、川守の一角に「川守城址」という石碑があり、そこが吉田館（よしだやかた）であったことはご存じでしょうか。（川守城写真①）「城の八幡さん」と呼ばれているここ川守城は吉田の氏神様で、ご神体は八幡神社と安土町の佐々木神社の分祀とが祀られています。（巻物 写真②）

安土の佐々木神社が分祀されているのは、吉田が五十九代目宇多天皇を元祖に持つ佐々木氏の一族であり、宇多天皇から十代目の吉田六郎厳秀（かねひで）が吉田の元祖だからです。厳秀の父は佐々木源三秀義といい、源頼朝に仕えていました。平治の乱で敗れた頼朝は伊豆に流刑。一一八〇年に頼朝が平氏打倒と挙兵してから一一八五年の壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡するまでの間、先祖厳秀は親子兄弟で手柄を立て、頼朝の勝利に貢献しました。その報奨に厳秀の兄定綱は近江の国の守護となり、他の兄弟達も出雲、備前、安芸の国の守護に任命され、佐々木一族として活躍しました。厳秀も竜王にて、軍事上要塞の位置にあり東西に通ずる奈良道を直下に見下ろせる雪野山

に詰め、の城である野寺城を築き、普段は平地のここ川守城（館）で生活をしていったということです。

因みに鏡山の星ヶ崎城も厳秀の兄定綱の孫、鏡久綱が築城したと記録されています。ここも中山道を見下ろせる要衝で、竜王の地も東西が佐々木一族で固められていたことになります

日置吉田流（へきよしだりゅう）

吉田一族は元々弓馬に優れ、代々佐々木旗頭七人衆でした。元祖厳秀から九代目の吉田上野介重賢とその子重政の時代、二人とも古流と言われる小笠原流や武田流も修得していました。が、一四九四年に日置弾正正次から革新的な日置流を伝授され、重賢の吉田流と合体して「日置吉田流」が生まれました。その日置吉田流から血縁者一人に伝授する「唯授一人」一子相伝とも言いますが、子から孫へと伝授され、雪荷派、道雪派、印西派、出雲派などの諸派が生まれ、戦国期から江戸期まで幕府將軍を含む諸大名の弓術指南役にたくさん選ばれました。

重賢・重政親子は、十二代將軍足利義晴公の弓術指南役を務め、吉田重綱の娘婿の葛巻源八郎は徳川家康、秀忠、家光と徳川家三代の弓術指南役を務めました。

南北朝時代から応仁の乱までの合戦の負傷原因の九十%が矢傷であったことから、実戦で最も活躍した武器は刀ではなく、弓中心の遠距離戦が主だった

たようです。（流派の図 写真③）

安土桃山時代以降の弓術諸派は、全てこの日置吉田流の系統に属するのて、ここ川守が「現代弓道の発祥の地」と言われる由縁です。

仙台藩とのご縁

仙台藩伊達政宗とその父輝宗の時代、宮城県他、近江の国内に一万石の飛び地を所有していました。東近江市羽田に代官屋敷を置き、竜王町橋本も飛び地の一部でした。

伊達藩では、印西派が伝えられ現在研究会を立ち上げ活動しておられ、我が家にもお運びいただき、その時「伊達輝宗の室」として重賢の妹が仙台藩に嫁いできている系図がある、と遠い国とのご縁のお知らせをいただきました。（印西派研究会 写真④）

箕作城の重政

一五六八年の観音寺城の戦いは、織田軍、徳川軍、浅井軍率いる六万の戦力に対し六角軍は一万一千と五倍も差のある多勢に無勢。

織田軍からの攻撃は、まず和田山城から来るだろうと予想して、和田山に六千、後は挟み攻撃を狙って箕作城に三千、観音寺城に一千余りを配置して迎えた戦いでした。しかし、信長の策はその裏をかいて箕作城からでした。

支城の箕作城が主戦場だったので「箕作城の戦い」とも言われています。箕作城の北から織田信長と木下藤吉郎隊二千三百が、東から丹羽隊・藤吉郎の弟が三千と計五千三百から攻撃を受けます。この箕作城は、急坂や大木が覆う堅城で攻めにくく、多勢に無勢だった六角軍でしたが、吉田出雲守重政の守りも固かったために夕方には織

田軍は追い崩されてしまったと記録されています。

そこで、織田軍は夜襲を決行。木下藤吉郎の策で数本の松明を中腹まで配置、同時に火を付け、大勢の敵が攻めて来たと思わせる一斉攻撃を仕掛けられ、まさかの攻撃に防戦は間に合わず明け方には落城したと記録されています。

源頼朝、織田信長、豊臣秀吉、伊達政宗、徳川家康

こうして歴史の一齣に我が家のご先祖の名が記録として残り、学生時代に習ったあの有名な源頼朝、織田信長、豊臣秀吉、伊達政宗、徳川家康と関りがあったのかと心わくわくし、その時代にタイムスリップしてみたい衝動にかられています。



シリーズふるさと探訪 (67)

蒲生氏郷、望郷を詠む
〜東山道・横関にて〜

山本 茂氏（美松台）

文禄元年（一五九二）春・早曉、氏は、近江武佐にいた。空まだ暗き、東山道を西進、肥前国・名護屋城（佐賀県唐津市にあったとされる）に向かっている。

氏郷とは、蒲生氏郷。六角承禎の重臣・蒲生賢秀の三男として近江国蒲生郡日野に生まれ、幼名を鶴千代と名乗った。幼少期より聡明で、時の為政者織田信長に寵愛され、岐阜の瑞竜寺の禪僧・南化玄興に師事、儒教や仏教を学び、斎藤利三の奨めで武芸を磨いた。岐阜城での元服の際には信長自ら烏帽子親となっていた。元龜元年（一五七〇）には父賢秀とともに柴田勝家の与力となり、一千余騎で参陣、朝倉氏を攻めて、五千五百石の領地を与えられる。同年、姉川の合戦、元龜二年の伊勢長島攻め、天正元年の朝倉攻め、小谷城攻め、同三年長篠の戦などで武功を挙げる。本能寺の変による信長の死後は、清洲会議で優位に立ち、信長の統一事業を引き継いだ秀吉に従い、天正十一年（一五八三）の賤ヶ岳の戦いでは羽柴秀長の下、峰城をはじめとする滝川一益の北伊勢諸城の攻略にあたった。戦後、亀山城を与えられる。天正十年（一五八四）、それまでの功績により、伊勢国・南伊勢十二万三千石の松ヶ島城主となった氏郷は、松ヶ島城の南約四kmにある小高い丘に新たな城を築き、城の名を松坂城とした。だが入城して後、わずか二年で奥羽・会津に転封となる。ここは伊達政宗が百五十万石近い大領国を築いていたが、政宗自身が小田原に遅参したことに加え、秀吉の軍令に違反し

ていたことなどを理由に、会津四郡を没収された土地であった。一年後、氏郷や浅野長政らの働きにより、秀吉は、奥羽全体を平定する。ここに、「秀吉の全国統一」が完了したのであった。氏郷は加増され九十二万石の大大名となり、黒川城を改築、蒲生氏の対い鶴（むかいづる）の家紋にちなみ、城名を鶴ヶ城と改めた。氏郷の戦績はめざましいものがあつた。秀吉をして「今の世、百万人の大軍を指揮させるとすれば氏郷しかない」と言わしめたほどである。

氏郷は、蒲生郡・横関の川堤にいます。足下から東方へ、うねうねと、苗の緑が続く蒲生の野の先には、今、東（ひんがし）に日が昇ってきた。鈴鹿の峰々が見える。右に水無山、左奥に鈴鹿最高峰の雨乞岳を構えているのは霊峰・綿向山である。頂上に綿向大神が鎮座するこの山麓には、里宮として馬見岡綿向神社が祀られた蒲生上郡の総社である。古代、人びとは日の出に、希望や新しい可能性への期待を願っていた。そうだが、氏郷は自ずと両手を合わせ、山を拜んだ。脳裏に浮かんだのは、社の境内の「若松の森」。感極まって思わず詠む。

「思ひきや人の行方ぞ定めなき
我が故郷をよそに見んとは」

我が身の無常を憐れんだのだ。これまで幾度の戦と城造り・町作りをしてきたことか。

蒲生氏郷の街造りは、近江・日野の街から始まり、伊勢松坂、会津若松と進んだ。松ヶ島の城下を「松坂」と改め、岐阜や安土で信長の町づくりを参

考に、城下町の経済発展を図るため、楽市楽座を推進し、日野や伊勢から有力な商人を誘致した。

会津では、築城とともに城下町の開発を行い、町名も「若松」と改めた。これは出身地の日野城に近い馬見岡綿向神社の参道にあつた「若松の森」が由来とされているという。これまでの城下を一新、家臣の屋敷を郭内に建て、外堀を築き、郭外に庶民を住まわせ、その要所に神社やお寺を配置、現在の会津若松の町並みの基礎を築いた。近江の日野、伊勢の松坂から商人を呼び、定期市を開設。また、商人の他にも、木地師と呼ばれる木工職人と塗師を招き、会津漆器の基礎をつくる。

本格的な酒造りも氏郷が近江から呼び寄せた杜氏によって創業させるなど、会津の産業の発展にも貢献していった。

氏郷は、戦に強いばかりでなく、むしろ城下まちづくり、民政に大きな力を尽くしたのであり、それが彼の本来の職に思われる。また和歌や茶道を嗜む文化人であった。千利休の弟子で「利休七哲」の筆頭となる技量。利休は蒲生氏郷について、「文武二道の御大将にて、日本においてひとり、二人の御大名」と表現したほどであった。

「名護屋城」は、時の豊臣政権が朝鮮出兵（文禄・慶長の役一五九〇〜）の出兵拠点として築いた大規模な城である。面積は約十七ヘクタールにおよび、当時では大坂城に次ぐ規模。周囲には百三十以上に上る諸大名の陣屋が構築され、二十万人を超える人々が集ったとされている。

「文禄・慶長の役」は、関東の有力

大名、北条氏を打ち滅ぼし、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉が、さらなる勢力拡大のため大明帝国の征服を目指し、諸大名を集め遠征軍を立ち上げたもの。秀吉は（明の）冊封国である朝鮮に道案内を求め、服属を強要したが拒否された。秀吉は朝鮮に向かい、小西行長や加藤清正らの侵攻で首都・漢城を放棄、陥落させた。だが明の援軍を得た中・朝の連合軍はこれに抵抗。以後、戦線は膠着した。休戦と交渉を挟んで、戦いの終結は、秀吉の死まで待たなければならなかった。

氏郷はこの戦には終始反対であった。この戦に「大義」がないと思ったのである。そのうえ、名護屋城・陣中にて体調を崩した氏郷は文禄二年（一五九三）十一月に会津に帰国したが病状が悪化し、文禄四年（一五九五）二月七日、伏見の蒲生屋敷において、帰らぬ人となった。享年四十の若さであった。

この長い侵略戦争で、秀吉が何も得られなかったのは何もなく、ただ残ったのは、数多くの兵士、民衆の犠牲と怨念、半島の荒廃と日本国内の世情の混乱と不安だけであった。だが、人々は「東」に、新しい時代の到来を待つ。今日がどんなに暗い世の中でも、明日はきっと東から、日はまた昇るのだから……と。



蒲生氏の対い鶴（むかいづる）の家紋



鶴ヶ城



蒲生氏郷

令和七年度の主な事業計画

【事業】

- ① 広報誌「観光竜王」の発行
- ② アウトレットパークにおけるイベント活動
- ③ JRふれあいハイキング
- ④ 鏡の里義経元服式
- ⑤ 雪野山、鏡山ハイキングコース等の整備
- ⑥ 広域観光キャンペーン観光誘客活動
- ⑦ 近隣観光キャンペーン観光誘客活動
- ⑧ SNSによる情報発信の強化
- ⑨ 観光ポスター・チラシの制作・配布
- ⑩ 農業体験
- ⑪ 役員研修会
- ⑫ 環境王国への支援
- ⑬ 竜王歴史倶楽部の活動支援
- ⑭ 会員・屋台事業への幹旋活動
- ⑮ 「近江うし丸」による観光振興・観光誘客

竜王町観光協会
役員名簿

(敬称略)

会 長	清水 正作(新任)
副会長	邑地 礼子
副会長(会計)	森嶋 政文(新任)
理 事	井口 敏夫
理 事	岩田 英司
理 事	大橋 裕子(新任)
理 事	小野 定章
理 事	川北 徳孝(新任)
理 事	木曾 公子
理 事	古株 明子(新任)
理 事	谷村 明美
理 事	寺島 健一
理 事	寺島 司
理 事	中村 匡希
理 事	吉田 健一(新任)
監 事	河合 貴志
監 事	小林 正典
顧問	若井 富嗣
幹 事	岩田 和弥
幹 事	谷村龍之介

令和7年5月26日現在

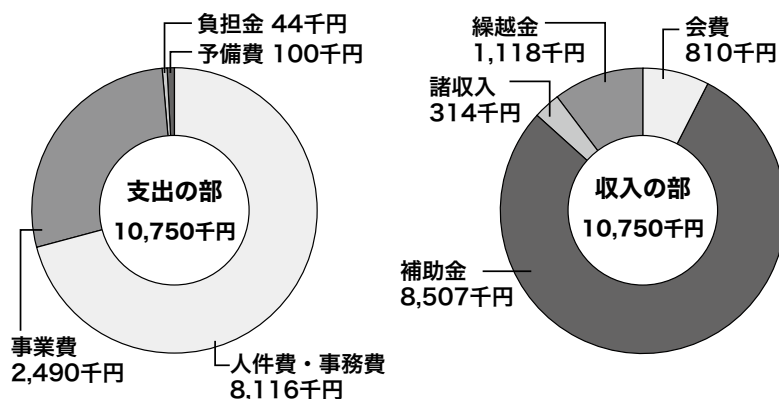
トピックス

皆さま、ご存知だったでしょうか。道の駅竜王がみの里入口の烏帽子ドーム内側に観光振興と観光誘客促進を図る目的で、小口松が丘在住の榎野豊子氏が竜王八景の名勝地を書と画で描かれています。本当に美しく描かれ感動しました。近くにお寄りの際は、是非ご覧ください。

(観光協会 事務局)



令和七年度の収支予算の内訳



今後のイベント・祭典情報

鮎すし漬込み体験

七月十三日(日)午前九時より

竜王町女性の家 調理室
初心者の方でも簡単に漬込みできます

スペシャルまるしえ

七月二十六・二十七日(土・日)午前十時

より 三井アウトレットP7駐車場
町制七十周年、アウトレット十五周年等
をお祝いするスペシャルまるしえ開催

苗村神社不動明王御開帳・大護摩供

八月三日(土)御開帳 午前九時より

大護摩供 午後三時より

苗村神社・不動堂

駕輿丁延命子安地藏尊御開帳

八月二十四日(日)午前九時より

駕輿丁地藏堂

ご祈禱は午前九時、十時、十一時より
午後は数珠繰り法要

グランまるしえ

九月二十三日(火祝)午前十時より

三井アウトレット南モールセンタコート

JRふれあいハイキング

九月二十七日(土)午前十時より

三井アウトレットバススターミナル集合

鳴谷溪谷、鳴谷池、雲冠寺跡、アウトレ
ット、岩屋不動尊、オウゴ古墳

JRふれあいハイキング

十一月十六日(日)午前九時三十分より

竜王町公民館集合

正覚院、苗村神社、龍王寺界隈、野菜収
穫体験

JRふれあいハイキング

十一月二十三日(日)午前九時三十分より

道の駅竜王がみの里集合

西光寺跡、星ヶ崎城址 城址でのろし点火

グランまるしえ

十一月三十日(日)午前十時より

三井アウトレット南モールセンタコート

各種グループによる楽器演奏披露予定

とがらひ祭り

十二月十三日(土)午後二時より

鏡神社界隈

あとがき

観光協会では、今年の総会で役員の任期満了に伴う役員改選がありました。その結果、長年会長を務めていただきました若井富嗣氏から副会長の清水正作氏に会長職がバトンタッチされました。若井会長は、二度の就任を含む長きにわたり先頭に立ち、指揮指導いただき大変ご苦勞様でした。また、退任されます役員の方々にも大変ご苦勞いただき有り難うございました。清水新会長には各種諸問題の解決や町の観光振興を目標とした観光誘客促進等に強力な指揮指導いただきますとともに、新しく選出されました新役員の方々にも積極的な活動をご期待申し上げます。今年、町制七〇周年や三井アウトレット開業十五周年等、アニバーサリーが重なった記念の年です。また、国スポ・障スポの開催もあり、大変慌ただしい一年になりそうです。観光協会もこれらのイベントにも積極的に参加し、誘客促進を図り多くの方々に記憶に残る町としておもてなしを施し、豊かな自然や歴史との触れ合いを通じて満足感のある旅にしたいだけにと考えています。また、各地域にありますが観光資源を活用したイベントの開催や各地域の祭事を一人でも多くの方々に来ていただくような告知等、町の観光振興と観光誘客促進を積極的に行開して参ります。皆さまには引き続きご理解ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

(観光協会 事務局)